大会報告

新潟で４つ目の全日本開催！

平成 23 年 10 月 23 日（日） 第7回全日本トレイルＯ選手権大会

新潟県協会
藤島由宇

さかのぼれば 5 年前

2006 年に新潟県では独立行政法人福祉医療機構の助成金を得てトレイルＯ普及事業を行っていました。助成金でコントロールフラッグを 100 枚購入したり、既存の国営越後丘陵公園地図を 8 月の暑い時期にわざわざ山川克則さんにお越しいただいてリニューアルしたりしました。

その後 100 枚のコントロールフラッグは2009年の全日本リレーでも使用され、丘陵公園は同年の第 2 回全日本スプリントのテレインとして使用されました。

実はこの年に新潟で開催したトレイルＯ普及員養成講習会では、講師でお招きした櫻内保幹 JOA トレイルＯ委員長（当時）より「新潟で全日本トレイルＯを開催してほしい」と受講者の新潟県協会員に要請があったのです。私も講師としてその場におりましたが、櫻内さんのその言葉を聞いたときに「ニヤリ」と心の中でつぶやいたことは今でも覚えています。

2009 年に 2 つの全日本大会を開催し一息ついた翌年春には、山西哲郎 JOA 会長名で新潟県協会に全日本トレイルＯの開催要望書が正式に送られました。これを受けていよいよ新潟県での全日本トレイルＯ開催に向けて動き出したのでした。

実際に本格的に準備が始まったのは今年の 7 月でした。高精度の地図が既にあったので少々油断していました。コース設定者は世界選手権銅メダリストの木村治雄さん、また大会コントローラには新潟にも縁のある小山太朗さんに引き受けていただきました。

左から鈴木規弘（総合３位）、伴毅（同２位）、小泉辰喜（同１位）、高柳宣幸（パラリンピック１位）、森長三（同２位）　（こやまたろう撮影）

優勝した小泉選手のコメント

小泉辰喜選手

「当日は“信じられない”という気持ちが強かったのですが、今回優勝できたことは大変うれしいです。 大会前の準備としては、過去の大会の地図と解説を見返して、課題の解き方の確認を行いました。 今回のコースで印象に残っているのは 8 番コントロールで、柵の外の街路樹を延々と数えたことです。

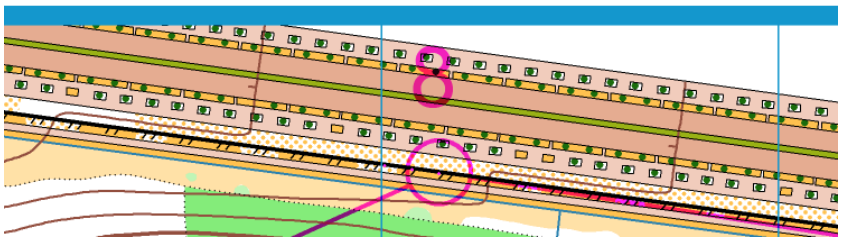
また難しかったコントールは出だしの１番、2 番と終盤の 18 番で、かなり時間を使いました。 特に間違えた１番は、位置の特定に道の南の階段のふちや人工特徴物を使い、B を選びました。崖の真ん中ということも頭に浮かび、道で歩測をして真ん中は C か、あるいはもっと西よりだ…とも考えましたが、最初に B とした印象を変えられませんでした。 閉会式前の講評でコースプランナーの木村さんが、“今回は難しい課題が設定できな かった”と言われました。今回の結果はそのおかげだと思います。 これで来年の WTOC の内定をいただきましたが、それまでに少しでも難しい課題に対応できるようになりたいと思います。」

次のトレイルＯ大会は？

新潟でまたトレイルＯの大会を開くとすれば、やはりまた全日本選手権だと考えています。トレイルＯの大会を開催できる団体は限られていますが、もっと多くの団体に、もっと大きく言えばすべての都道府県協会がトレイルＯを開催できるようになって欲しいです。

我々はフットＯだけでなく、スキーＯ、MTBO、トレイルＯの４種目を預かっているのです。フット以外の 3 種目は、決して一部の愛好家のためだけのものではないということを、オリエンテーリングにかかわる人は認識しておかなければならないと感じます。

（藤島由宇）



小泉選手も面を食らったＥクラス８番「柵」。外の部分的に樹が植わっていない街路樹がヒントだったが、コース設定者の木村氏は「この課題を、何を見て解けと言わんとしているか分からないようでは…」と手厳しい講評。